

県中しつわて

令和3年6月1日/第253号

- ●発行/岩手県中学校長会 ●代表/松葉 覚(盛岡市立下橋中学校)●事務局/〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9 (盛岡市勤労福祉会館2F)/電話·FAX 019(622)0572 ●ホームページ https://www.iwate-jh-kochokai.jp/
- ●印刷/杜陵高速印刷/電話019(651)2110

第59回岩手県中学校長会総会(令和3年4月28日開催)

一枚岩となって叡智を結集し、新しい生活様式を 踏まえた学校経営の充実を

岩手県中学校長会 第51代 会長 松葉 覚(盛岡市立下橋中学校)



本日ここに、2年ぶりに会員が一堂に会し、第59回岩手県中学校長会総会を開催できますことに心から感謝申し上げます。また、公務ご多用の中、岩手県教育委員会教育長佐藤博様、岩手県市町

村教育委員会協議会会長 千葉 仁一 様、教職員課 首席経営指導主事兼小中学校人事課長 金野 治 様、 学校教育室首席指導主事兼義務教育課長 三浦 隆 様のご臨席を賜りましたことに、厚く御礼申し上げ ます。

この3月をもってご勇退されました、菊池正樹会 長をはじめ26名の会員の皆様には、30有余年の長き にわたり、本県教育の充実・発展に多大なご貢献を なされました。また、私ども後輩を温かくご指導い ただきましたとともに、本会を力強く牽引していた だきましたことに心から感謝を申し上げます。どう かこれからも、ご指導ご支援を賜りますようお願い 申し上げます。

そして、4月から新たに会員となった26名の皆様、 心から歓迎を申し上げます。本会は、「会員相互の 協調と連携を基調に、中学校長としての職能の向上 を図り、本県教育の振興に寄与すること」を目的と しています。新会員の皆様方には、これまで積み重 ねてこられました様々な経験をもとに、学校経営の 責任者として持ち前のお力を発揮されますよう、ご 期待を申し上げます。 さて、年号が、令和となり3年目を迎えました。 今年度は、新学習指導要領が全面実施となり、「子 どもたちの視点からの学びの充実」や「ICT等を 効果的に活用した学習の質の向上」などが求められ ております。その他に、いじめ問題や不登校対策・ SNSを起因とした問題などへの対応も求められて おります。各学校は、その求めに応じていく責務が あり、私たち校長は、その責務を果たすことができ る学校づくりに尽力する必要があります。

また、各学校では、「郷土を愛し、その復興・発展を支えるひとづくり」を目指して、『いわての復興教育』を取り組んで参りました。東日本大震災津波から10年が経過しましたが、『いわての復興教育』の理念を風化させることなく、これまでの取組を記憶と記録に残して確実に引き継いでいくことが大切です。そして、10年の節目を迎えた今こそ、本会としても次へのステージに向けた新たな取組を考えていきたいと思います。

なお、今年度は昨年度以上に、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る学校の新しい生活様式に対応した感染症対策を講じながら、学校の行事や本会の事業等を行わなければなりません。このことから、6月に予定しておりました第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会は参集せずに、「大会誌による発表会」として開催することとしました。

このようなことは、今後も想定されますので、そ の時の状況に応じながら冷静に判断し、適切な対応 を行って参りたいと思います。そして、このような時だからこそ、市町村や各地区はもちろんのこと、県としても一枚岩となって叡智を結集し、会員相互が力を合わせて取り組む岩手県中学校長会を目指して参ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、岩手県教育委員会並びに各市 町村教育委員会をはじめとする関係諸機関・関係各 位におかれましては、これまでと変わらぬ大所高所 からの、ご指導ご支援を賜りますようお願いを申し 上げ、挨拶といたします。

退会者代表あいさつ

叡智を結集し、力を合わせ…

前岩手県中学校長会長 菊池 正樹



まずもって、松葉覚新会長のもと、新たに26名の新会員を迎え、4月28日に開催された第59回岩手県中学校長会総会をもって、令和3年度岩手県中学校長会の活動がスタートされましたことに、心からお喜び申し上げます。また、この3月末をもって退会した26名を代表し、これまで会員の皆様をはじめ、多くの皆様方からいただきましたご支援ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年度、県中学校長会は、新型コロナに関する国の緊急事態宣言を受けて第58回総会を中止とする判断をしました。生徒や教職員の命を守るということを最優先としての判断でした。各学校でも、多くの行事等が中止・延期・縮小となりましたが、生徒や教職員の命を最優先にしながらも、生徒の学習や成果の発表の場、活躍の場をどのように保障していくのかという、さらに、より高度な判断を求められる状況となりました。このような中、県中校長会の理事会等において、県内各中学校の校長先生方が、地区ごとの情報や県内外の情勢を共有し、難しい判断を繰り返しながら、学校運営にあたっていることを聞き、校長先生方の努力に敬意を表すると共に、校長会という組織の必要性、そして校長同士の気持ちのつながりの大切さを、強く感じました。

今年度も、未だ先行きが不透明であり、対策についての考え方も変化してきている新型コロナウイルスへの対応に加え、学習指導要領の確実な実施、GIGAスクール構想の推進、いじめ等の問題行動や不登校等への適切な対応、部活動の在り方の検討や働き方改革の推進等々、学校が抱える課題は多くあります。県校長会が中心となり、県内の校長先生方

の叡智を結集し、力を合わせ、立ちはだかる多くの 課題を乗り越えていくことを切に願っています。な お、微力ではありますが、退会者一同、校長先生方 を、そして県中校長会を支えて参りたいと考えてお ります。

結びに、岩手県中学校長会の益々の充実と発展を ご期待申し上げ、退会にあたっての挨拶とさせてい ただきます。

令和2年度末退会者

No.	地区	学校名	氏		名	
1	盛岡	盛岡市立厨川中学校	菊	池	正	樹
2	盛岡	盛岡市立黒石野中学校	藤	岡	宏	章
3	盛岡	盛岡市立飯岡中学校	熊	谷		可
4	盛岡	盛岡市立乙部中学校	田	П	秀	樹
5	盛岡	盛岡市立渋民中学校	高	橋	浩	幸
6	岩手	岩手町立一方井中学校	佐	藤	利	之
7	岩手	八幡平市立松尾中学校	エ	藤	良	二
8	岩手	滝沢市立滝沢中学校	角	掛	忠	浩
9	紫波	矢巾町立矢巾北中学校	Ш	下		彰
10	花巻	花卷市立花卷中学校	太	田		健
11	花巻	花卷市立湯本中学校	髙	橋		透
12	花巻	花卷市立石鳥谷中学校	佐	藤		努
13	胆江	奥州市立江刺南中学校	大	平		優
14	胆江	奥州市立衣川中学校	菊	池	俊	\equiv
15	一関	一関市立磐井中学校	皆	Ш		啓
16	一関	一関市立一関東中学校	狩	原	雅	裕
17	一関	一関市立萩荘中学校	青	柳	清	隆
18	一関	一関市立大東中学校	藤	原	良	治
19	一関	一関市立千厩中学校	鈴	木	秀	行
20	一関	平泉町立平泉中学校	平	野	道	夫
21	気仙	大船渡市立大船渡中学校	石	橋	和	彦
22	気仙	大船渡市立末崎中学校	村	上		誠
23	気仙	大船渡市立赤崎中学校	菅	生	裕	之
24	釜石	釜石市立大平中学校	及	Ш	正	宏
25	宮古	宮古市立第一中学校	伊茂野		達	哉
26	久慈	久慈市立大川目中学校	関	上		康

令和3年度行政説明の概要

教育行政上の課題について

教職員課首席経営指導主事兼 小中学校人事課長 金野



1 R3年度の定期人事異動について:略

2 少人数教育の推進について

少人数学級、少人数指導、サポート推進事業の3本柱がある。そのうち少人数学級については、本県では小中全学年で35人以下学級編制。国は公立小学校の1学級当たりの上限を40人から35人に引き下げる改正義務教育標準法が成立。令和7年度までに順次実施し、小学校全学年の35人学級化へ。教育の質の向上につながると期待。

学校生活サポートについては、今年度、中学校では学習課題のある学校には加配定数を活用し、生徒指導に課題のある学校へ絞っての配置。昨年度の効果検証調査によるとしっかり成果を上げている。

3 再任用について

29時間は157名、フルタイムが201名で、全体の56%の方がフルタイム。令和 4年度には400名を超える見込み。

4 人材育成について

新規採用者に絞る。優秀で希望に満ち溢れた新規採用者だが、多忙であるとか同僚との人間関係等が要因となって精神疾患となる採用者が減少傾向にはない。新規採用者の悩みに共感し、「小さなできた」を逃さず認め褒め、喜びを共にしながら自信を積み重ねていけるよう、温かい指導を。

5 不祥事の未然防止について

飲酒運転と不適切な事務処理の2点に絞る。昨年度の飲酒運転はゼロ。ただ、1年おきに発生しており、今年度は要注意の年。今一度、職場内の引き締め、個別の指導等も併せて取組の徹底を。

不適切な事務処理について、担当者任せとならないよう、適正な事務執行を。

6 働き方改革の取組について

県教委では、H30年に働き方改革プランを策定し、 昨年度までの3年間、学校の取組と両輪になって、 教職員の負担軽減、健康確保等に重点的に取り組ん できた。一定の成果はあるが、業務量や長時間勤務 の実態は未だ深刻な状況。新たに「岩手県教職員働 き方改革プラン(2021~2023)」を策定。取組を一 層強力に推進を。岩手の未来を担う大切な子どもた ちに、質の高い教育を持続的に提供することにつな がる。

7 結びに

校長のマネジメントは、職員が働きやすい環境を整え、教職員のやる気と意欲を喚起すること。子どもたちと先生方のために、教職員課は、校長先生方のマネジメント、学校経営、学校運営を支えて参りたい。

義務教育行政推進上 の現状と課題

学校教育室首席指導主事兼 義務教育課長 三浦 隆 様



1 学校教育指導指針掲載のアクションプランの指 標について

児童生徒の姿を中心に設定。「将来の夢や目標を持っている」、「人が困っているときは進んで助けようと思う」など。「つまずきに対応した授業改善が行われている」という項目(小中89)では児童生徒が答えた実感として高い数値。日々の授業改善に積極的に取り組まれた成果。一方、児童生徒ではなく「学校の割合」を示す指標も。各校での取組を期待。男女混合名簿使用についても指標あり。ジェンダー平等の意識は高まってきている。

2 学習指導要領に基づいた「指導と評価の一体化」 について

今年度、中学校の学習指導要領が全面実施。国で示した「学習評価」に関する参考資料を基に県教委で「ハンドブック」を作成配付済みなので活用を。昨年コロナでストップした教育課程協議会やブラッシュアップ等の研修事業も感染対策を講じながら実施。

3 教育の情報化・ICTの効果的活用について

県は「いわて学びの改革事業」の実践を紹介するほか、総合教育センターでは70を超える講座をICT活用研修としている。しかし、最大の研修は授業での活用。先進校では、ICTを使うことによって、学習課題の提示や生徒の考えの集約、共有などについて効率的と実感している。また、生徒が授業中、関係する資料を既習内容から自分で取り出して考える等、学習を自己調整する姿が見られる。「個別最適な学び」を実現するために必須のツールとなっている。

4 幼児教育センターの設置に向けた動向

就学前教育の充実を目指し、「いわて幼児教育センター」を令和4年度設置に向けて準備中。中学校においても教育の基礎となる資質・能力(非認知能力)を適切にとらえ、学びをつないでほしい。

5 結びに(コロナ禍と学校)

東日本大震災から10年。そして今、コロナ禍の中で、子どもの命、安全を守るため、各校が精一杯取り組んでいることに感謝。子どもたちの安心できる日常は学校にこそある。学校では「何が大事か、本当に必要なことは何か」という本質をとらえたカリキュラム・マネジメントを大胆に実践した一年だった。子どもたちの「幸福」「笑顔」を守り育むため、共に取り組んでいきたい。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に昆野賢寿氏(宮古地区・宮古二中)を選出、記録者に松岡聡氏(久慈地区・種市中)を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案及び調査研究、各種研究大会への対応等について協議し確認を行いました。

調査研究については、調査1「進路指導推進状況 調査」及び調査2「教育課程編成実施状況調査」に ついて、今年度の調査項目と留意事項を確認し、各 学校の学校経営等の改善に資するため、それぞれ上 期と下期に分けて調査を実施することを確認しまし た。調査結果の分析・考察は、幹事の佐々木秀一氏 (盛岡地区・飯岡中)、菊地正道氏(岩手地区・葛巻 中)、坂本大氏(紫波地区・紫波二中)、芳賀郁夫氏 (岩大附属中)のご協力を得ながら行います。

なお、各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、推進をお願いします。

<研究調査担当理事 菅井 雅之>

行財政部

会議では、議長に千葉賢一氏(胆江地区・江刺南中)を選出し、記録者に野原勝博氏(一関地区・舞川中)を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、行財政調査の内容と進め方について意 見交換を行い、事業推進日程を確認しました。内容 については昨年度のものからの修正・変更の意見は ありませんでした。

その後、幹事に村田和代氏(盛岡地区・河南中)、藤澤崇氏(岩手地区・雫石中)、伊藤茂美氏(紫波地区・矢巾北中)を選出。今後、幹事会で内容を確認したうえで調査を実施し、調査後の結果の集約・分析等を進めていくこととしました。

行財政調査は、7月中旬依頼~8月下旬地区締切の予定で、電子メールを活用して実施します。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

<行財政部長 鈴木 美成>

生徒指導部

会議では議長に米慎司氏(釜石地区・釜石東中) を選出するとともに、記録者に佐々木哲氏(宮古地 区・崎山中)を委嘱し、今年度の運営方針と事業計 画について協議し、事業推進日程等の確認を行いま した。

主要事業である「生徒指導の諸課題にかかる調査」は、令和2年度分を対象期間として調査を実施します。調査項目については、5月末より各地区担当を通してメール等の電子媒体で送付しますので、会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、調査のタイトルを諸問題から諸課題に変更するなど、若干の修正を行いましたが、内容的には昨年度と同様の調査項目で実施することを確認しました。調査結果の分析・考察は、幹事の齋藤斉氏(盛岡地区・玉山中)、高橋徹氏(岩手地区・西根第一中)、福士幸雄氏(紫波地区・矢巾中)のご協力を得て8月中にまとめ、9月中に「結果と分析」の概要としてリーフレットを作成し、配付する予定です。

<生徒指導担当理事 中屋 豊>

広報部

会議では議長に石積康弘氏(岩手地区・松尾中) を選出するとともに、記録者に菅原俊博氏(花巻地区・大迫中)を委嘱し、今年度の運営方針と運営計画について協議するとともに、各地区への原稿執筆分担等を確認しました。

広報部の主な事業は、年間4回の会報「県中いわて」と会誌「岩手県中学校長会誌第33号」の発行です。会報の分担等については、新入会員の地区ごとの人数やこれまでのバランス及び研究大会の分科会所属等を考慮し、各地区への原稿執筆を依頼しました。ご協力をお願いします。

「県中いわて」は6月前半に253号を発行し、以後約2カ月ごとに発行予定です。その内容は県中学校長総会、各地区校長会の活動状況や先輩メッセージ、新入会員の抱負等です。また、全日中静岡大会の報告も予定しておりますが、コロナ禍のため開催中止や開催方法が変更となった場合には内容を調整していきます。ご理解をお願いします。

<広報担当理事 小野寺 哲男>

令和3年度 新 会 員

No. 地 X 学校名 氏 名 前所属職 岩手大 盛 尚 芳 賀 郁 夫 江刺第一中学校副校長 1 学附属 手 山本 平 普代小学校校長 2 岩 小・中 紫 3 波 矢巾北 伊 藤 茂 美 衣里小学校校長 盛岡教育事務所主任 花 巻 湯 澤口良 夫 4 経営指導主事 花 湯 菅 原 正 室根中学校副校長 5 卷 本 浩 県教委教職員課主任 6 花 卷 宮野目 佐 孝 之 経営指導主事 花 巻 大 迫 菅 原 俊 博 伊手小学校校長 沢内中学校副校長 湯 幸 8 和 賀 田 吉 田 哉 陸前高田市教委学校 9 胆 江刺南 千 葉 賢 江 教育課課長 胆 江刺東 関 小本小学校校長 10 江 Ш 寛 司 11 関 一関東 \equiv 浦 仁 宮古河南中学校副校長 12 関 萩 荘 高 原 智 康 花卷中学校副校長 13 関 大 東 佐々木 晋 花卷市教委課長 山田町教委次長兼学校 14 関 千 厩 箱 山 智 美 教育課長 平 一戸中学校副校長 15 関 泉 小田島 哉 達 県南教育事務所教務課長 16 気 仙 大船渡 須 藤 淳 兼主任経営指導主事 17 気 末 崎 光 高田東中学校副校長 仙 蒲 生 正 平泉中学校副校長 18 釜 唐 丹 八木稔 和 石 19 釜 石 大 平 蛸 島 茂 雄 吉里吉里中学校副校長 県北教育事務所教務課長 20 宮 古 河 南 村 田 賢 兼主任経営指導主事 21 宮 古 重 茂 及 Ш 禎 彦 江釣子中学校副校長 22 古 里 宮 新 大久保 浩 滝沢南中学校副校長 大 越 大船渡中学校副校長 23 宮 古 Ш 井 淳 岩 鈴 木 雅 久慈中学校副校長 24 宮 古 泉 孝 25 宮 小 Ш 佐々木 成 釜石東中学校副校長 古 26 宮 古田野畑 佐々木 敏 之 長内中学校副校長

令和3年度 県中役員

役 職	F	E	ŕ	<u></u>	学	校	名
会 長	松	葉		覚	下		橋
副会長	<u></u> 内	村	弘	子	松		園
//	高	橋	信	之	上		野
"	<u> i</u> 柏	舘	秀	·-	十一甲		子
"		地	75	理	人		 慈
監 事	新井		邦	夫	遠	野	
	蒲	生生	正	_ <u>人</u> 光	末	力	 - 崎
"	三	<u>工</u> 浦		勝	花		輪
理事	坂	下	以	孝	米		内
年 尹		石	旧石	 一郎	_	宮	
	<u>箱</u> 佐		順-	一郎 宏	沿紫	 波 第	内
"		藤	嘉		_	次 朱	
"	阿	部	<u>人</u>	幸	東	mz	和
//	多	<u>H</u>	喜	夫	遠	野	東
"	高	橋	信	之	上		野
"	千	葉	和	仁	水		沢
"	時	枝	直	樹			関
"	村	上		亮	東		朋
"	柏	舘	秀		甲		子
"	菊	地		裕		古・貧	<u> </u>
"	菊	地		理	久		慈
"	前	田		稔	福		刮
11	佐	野		理	上		田
"	菅	井	雅	之	仙		北
"	鈴	木	美	成	大		宮
"	中	屋		豊	厨		Ш
"	小里	予寺	哲	男	黒	石	野
"	橋	場	中	士	下	小	路
評 議 員	鈴	木	裕	樹	城		東
"	藤	澤	英	輝	滝		沢
"	福	士	幸	雄	矢		巾
"	菅	原	俊	博	大		迫
11	小	向	敏	夫	遠		野
11	八重	重樫		仁	和	賀	東
"	菊	地	卓	哉	東	水	沢
11	千	葉		豪	厳		美
"	及	JII	賢	_	世	田	米
"	浅	沼	寿	典	吉	里 吉	里
"	羽	柴	隆	之	釜	津	田
"	小	橋		敏	長		内
"	遠	藤		岳	軽		米
常任理事		_	_				_
〃 (総 務)	佐	野		理	上		\blacksquare
〃 (研究調査)	菅	井	雅	之	仙		北
〃 (行 財 政)	鈴	木	美	成	大		宮
〃 (生徒指導)	中	<u>·</u> 屋		豊	厨		Л
/ (広報)	 小里		哲	男	黒	石	野
/ (中 体 連)	橋	場	中	士	下		路
/ (中文連)	松	葉	•		下	•	橋
(1 ~ ~/]	11-1	//~		<i>)</i> L			ilea.

新任校長の抱負

小さな学校の大きな誇り

花巻地区 澤口 良夫(湯口中)



本校は、宮沢賢治の童話に登場する「なめとこ山」から流れ出る豊沢川沿いの花巻南温泉峡に位置しています。生徒数108名の小さな学校ですが、生徒一人一人が明るく活気に満ちており文武両道で力を発揮しています。

今年度、本校は第21回全国中学校総合文化祭岩手大会において「神楽」を発表することになっています。湯口郷土史には「地域に根ざし、生活と深くとけこみながら受け継がれてきたこの伝統ある郷土芸能を、湯口中学校では45年から集団演技として取り組み、生徒の演じているのは神楽(シンガク)と言われる舞である。」と記されています。半世紀に渡って受け継がれているまさに本校の伝統文化です。神楽を柱とし、各教科やいわての復興教育、道徳、総合的な学習の時間等を関連付けながら、さらに充実・発展させ「湯口だからこそできる教育、やるべき教育」を推進することが今年度の重点です。

また、本校には「絆」という生徒会歌があります。これは、東日本大震災直後に生徒達が発案し誕生した歌です。生徒達の言葉で歌詞を考え、本校卒業生であるNSPの平賀和人さんにメロディーをつけていただいたものです。生徒会歌として、当時の先輩方の想いと共に今も諸行事等で歌い継がれています。「絆」の歌詞に「小さな学校の大きな誇り」という一節があります。小さな学校の大きな誇りとして、神楽の他にもこれまで駅伝、野球、バドミントン、剣道等で県大会制覇を成し遂げるなど部活動においても少ない生徒数ながら大きな成果を上げてきました。今年も各部で熱い部活動が行われており、放課後に各部を回るのがとても楽しい毎日です。

「小さな学校の大きな誇り」この言葉どおり生徒、 教職員全員が湯口中に誇りを持って日々の学校生活 を送っています。このことが校長としての何よりの 誇りです。今後も素直で何事にも一生懸命取り組む 湯口中生一人一人のさらなる可能性の伸長のため、 教職員が一丸となり保護者、地域と手を携えながら 学校経営に当たって参る所存です。

新任校長の抱負

「ふるさとみやこをつくる ひとづくり」のために

宮古地区 村田 賢(河南中)



河南中学校は、本州最東端のまち宮古市の中で、宮古湾へと注ぐ閉伊川南岸の高台にあります。周辺には、県立大学宮古短期大学部、宮古海上技術短期大学校、市民文化会館、市民総合体育館等の施設があり、宮古市内の文教地区の一つとなっています。東日本大震災から10年が経過し、その後の台風被害もあり、地域や保護者の中には震災の影響がまだ残っており、それらは少なからず生徒たちにも影響しています。しかし、生徒たちは、自然豊かな環境の中で学習や部活動に精一杯取り組んでいます。

本校は震災後から復興教育に力を入れてきました。 教育目標に復興教育の3つの教育的価値「いきる かかわる そなえる」を関連付け、日々の教育活動 を進めてきました。校舎内には、出雲市立河南中学 校等多くの学校との交流の様子を展示した「つなが るーむ(展示室)」があり、マルチホールには生徒 が作成した復興祈念モニュメント「33万本の爪楊枝 点描画」があります。また、平成25年度に全校生徒 が作詞した「復興ソング~未来へ~」が今でも歌い 継がれています。

そんな河南中学校に新任校長として赴任、初めは 入しぶりの学校現場に戸惑うばかりでした。さらに 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり学校運営 上の様々な判断を迫られ、不安とプレッシャーばか りを感じる日々が続きました。しかし、5月になり 体育祭取組が始まると、組団活動に一生懸命取り組 む生徒たち、それを必死に支える先生たち、日を追 うごとに各組団とも上手くなっていく競技やまとま る応援、それらを傍で見ることができました。教師 として生徒たちの成長する姿を見ることができる・ 関わることができる幸せを改めて実感し、前向きな 気持ちになることができました。

これからは「ふるさとみやこをつくるひとづくり」 のため、地域や保護者と連携し、教職員と力を合わせ、生徒一人一人の力を伸ばすことができる学校運営を進め、校長としての責務を果たしていきたいと思います。